

| | | | |
|---|--|--------------------------|--|
| 氏名 | 伊藤 真理 | 生年月日 | |
| 所属・役職 | 政策調査分析センター 22世紀ライフサイエンスセンター | 経験年数 (うち本業務の類似業務従事年数) | |
| | 主任研究員 | 28年 (10年) | |
| 専門分野 | 公衆衛生学、疫学・予防保健学、生命倫理学、精神保健福祉学 | | |
| 所有資格 | 博士(保健学)、修士(公衆衛生学、専門職)、精神保健福祉士 | | |
| 経歴(職歴/学位) | <p>学歴</p> <p>1989年3月 日本女子大学家政学部家政理学科(生物農芸専攻)卒業</p> <p>2009年3月 東京大学大学院医学系研究科修士課程修了 (公共健康科学専攻:老年社会科学分野所属)</p> <p>2013年9月 東京大学大学院医学系研究科博士後期課程単位取得満期退学 (健康科学看護学専攻:老年社会科学分野、疫学・予防保健学 分野所属)</p> <p>2015年10月 日本社会事業大学通信教育課精神保健福祉士一般養成課程卒業</p> <p>2016年3月 精神保健福祉士国家試験合格</p> <p>2017年3月 東京大学大学院医学系研究科博士学位審査合格</p> <p>職歴</p> <p>1987年4月～1989年3月 国立科学博物館植物研究部技術補佐員</p> <p>1989年4月～2006年10月 朝日新聞社(編集局記者)</p> <p>2007年1月～2010年10月 一般社団法人日本生殖補助医療標準化機構 (倫理委員会委員、非常勤)</p> <p>2010年12月～2012年7月 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター (研究所、福祉と生活ケア研究チーム)</p> <p>2011年4月～2015年3月 独立行政法人国立がん研究センター中央病院 (乳腺科・腫瘍内科外来研究員)</p> <p>2013年9月～2014年5月 独立行政法人国立がん研究センター がん予防・検診研究センター (検診研究部特任研究員)</p> <p>2013年10月～現在 東京大学大学院医学系研究科客員研究員 (疫学・予防保健学分野)</p> <p>2015年4月～2016年3月 社会福祉法人プシケおおた相談員</p> <p>2015年6月～現在 公益財団法人未来工学研究所</p> <p>2016年4月～現在 学校法人古屋学園二葉栄養専門学校非常勤講師</p> | | |
| 所属学会等 | 日本公衆衛生学会、日本保健医療社会学会、日本産業衛生学会 日本生命倫理学会 | | |
| 業務の実績 | | | |
| [業務経験] | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 2016(平成28)年度株式会社キアゲン委託「自己採取 HPV 検査の有効性・実行可能性検証調査研究(セルフ HPV テスト臨床応用事業)」 ● 2016 年度内閣府委託「理工系分野における女性活躍の推進を目的とした関係国の社会制度・人材育成等に関する比較・分析調査」 ● 2015 年度株式会社キアゲン委託「出雲市の子宮頸がん住民健診における自己採取 HPV 検査臨床研究事業」 ● 2015 年度 JST 委託「学会の科学技術に関する動向分析調査」 | | | |

[学会発表]

- 沖縄県民の食生活・栄養摂取の変遷と健康状態の変化に関する文献的検討
(日本公衆衛生学会、2008年11月、福岡)
- 那覇市における中学生の食環境が栄養素摂取量に及ぼす影響
ーファーストフード店、コンビニエンスストアに着目してー
(日本公衆衛生学会、2009年11月、奈良)
- 沖縄県B市における小中学生の食事と運動、生活習慣に関する実態調査(第一報)
(日本健康医学会、2009年11月、東京)
- 沖縄県における中学校周辺の食環境の検討ー地理情報システム(GIS)を用いてー
(日本学校保健学会、2009年11月、沖縄)
- 子宮頸がん検診の受診を阻む要因と改善策の検討ー自己採取 HPV 検査キットを用いてー
(日本公衆衛生学会、2014年10月、栃木)
- 子宮頸がん住民検診未受診者層への自己採取 HPV 検査導入トライアル(島根県出雲市)
(日本公衆衛生学会、2015年11月、長崎市)
- 子宮頸がん住民検診未受診者層を対象とした意識調査(中間報告)ー島根県出雲市等での
自己採取 HPV 検査導入トライアル事業からー
(日本保健医療社会学会、2016年5月、大阪)
- Acceptability of HPV test using self-sampling device in non-attende of municipal
cervical cancer screening in Japan
(European Research Organisation on Genital Infection and Neoplasia2016、2016年
6月、オーストリア・ウィーン)
- 自己採取 HPV 検査による子宮頸がん住民検診未受診者へのアプローチ(福岡県篠栗町)
(日本公衆衛生学会、2016年10月、大阪)
- 検診未受診者対策としての自己採取 HPV 検査の有用性ーこれまでの研究からー
(日本公衆衛生学会、2016年10月、大阪:ランチョンセミナー招聘講演)
- 自己採取 HPV 検査導入による子宮頸がん検診の啓発と受診促進の可能性ー民間企業健康保
険組合等での調査結果からー
(東京大学医学系研究科生物統計学/疫学・予防保健学研究会、2016年12月、東京)
- 職域における子宮頸がん検診の実態についてー健康保険組合団体での調査からー
(日本産業衛生学会、2017年5月、東京)
- 職域における子宮頸がん検診未受診者対策としての HPV セルフチェックーHPV セルフチェ
ックの有用性と職域での運用方法ー
(日本産業衛生学会、2017年5月、東京:ランチョンセミナー招聘講演)
- 自己採取 HPV 検査陽性者の子宮頸がん検診受診動向追跡調査ー島根県出雲市のトライアル
事業よりー
(日本保健医療社会学会、2017年5月、京都)

[助成研究等]

- やずや食と健康研究所 2007 年度助成研究「琉球列島における社会経済環境の変化と栄養転換
(Nutrition Transition) の関係」
- 平成 20 年度日本女子大学教育文化振興桜楓会奨学研究「琉球列島における社会経済環境の変
化と栄養転換 (Nutrition Transition) の関係」
- 2008 年度 東京大学 A G S 研究会助成研究「G I S (地理情報システム) を用いた食環境が地
域住民の健康・生存に及ぼす影響の空間解析評価」
- 2009 年度 東京大学 A G S 研究会助成研究「沖縄県離島地域における住民の健康・生存に及ぼ
す食環境と生活習慣の関連評価」
- 2010 年度 東京大学 A G S 研究会助成研究「日本人がん患者のスピリチュアルニーズ解明と国
際比較」

- 2009 年度東京大学医学系研究科学術研究業務委嘱研究「沖縄県の児童・生徒における食環境が食行動や食品（栄養素）摂取量に及ぼす影響に関する研究」
- 2010 年度東京大学医学系研究科学術研究業務委嘱研究「終末期における spiritual pain の実態とケアの有効性検討に関する研究」

[著書等]

- 「エリザベス・キューブラー・ロスの思い出」（日本語版編集・発行担当、麻布小寅堂、2007 年 11 月）
- 「スピリチュアルケアの根底にあるもの—自分が癒され、生かされるケア」（共著、遊戯社、2012 年 12 月、1 章担当：What is Spiritual care? 誰のために何をするのか?—がん患者さんたちとの面接から—）
- 乳がん患者の妊娠出産と生殖医療に関する診療の手引き 2014 年版（「乳癌患者における妊 孕性保持支援のための治療洗濯および患者支援プログラム・関係ガイドラインの開発」班・日本がん・生殖医療研究会編集、金原出版株式会社、2014 年、ガイドライン評価委員メンバーとして参加）
- 「チームで学ぶ女性がん患者のためのホルモンマネジメント」（共著、篠原出版新社、2017 年 7 月、第 5 章 7. Spirituality 担当）